

生コン発祥の誇りを引き継いで

東京エスオーシー株式会社 横浜工場



環境に配慮

京急金沢八景駅からバスで約15分、長倉町バス停に降りると東京エスオーシー横浜工場のプラントが間近に見える。

長倉町は横浜市と鎌倉市の境界に位置し、町内を流れるいたち川に架かる鎌倉石製のアーチ状眼鏡橋「昇龍橋」は横浜市から文化財指定されている。同橋の湧水は有名で、いたち川小川アメニティ散策コースの途中で観ることが出来る。

横浜工場は県道23号線、横浜横須賀道路の朝比奈ICに接し、交通網に恵まれた立地であるが、行楽シーズンになると鎌倉への観光客で渋滞が発生、また、霊園が近くにあるところから、お盆になると渋滞が激しくなるため、「安定供給に支障が出ぬよう配車管理に努めている」（伊藤司常務取締役工場長）。

工場の裏側には緑に囲まれた遊歩道

があり、高台に民家があるところから、「自主的に騒音・振動・粉じんの発生を抑制している」（野山哲夫工場次長）。

独自の品質管理

東京エスオーシーは住友大阪セメント100%出資の直系生コン会社で、横浜工場はプラスト金沢工場を承継したもので2010年10月の設立。

従業員数は9名。うちプラスト社から6名を受け入れた。専業から直系工場に変わったことで、「当初は仕事に対する意識の違いがあったので、意識改革を図り、意識格差を解消した」（伊藤常務取締役工場長）。

設備は「承継にあたって一新した」（野山工場次長）。ミキサは日工の二軸強制型ダッシュを採用、容量は3300ℓ。計量制御盤も日工製のコンピュータ自動制御方式を導入し、自動表面水測定装置との連動により、配合の自動補正も標準化。

お客様に最高の満足を提供します」というもの。

安定した品質と安定供給は経営理念、経営方針にも謳われている。

経営理念は、「当社は、常に企業体質の強化に努め、健全な経営基盤を確立し、顧客に対し安定な品質と円滑な納入を保証することにより、そのニーズと信頼に応え、国土建設に不可欠な重要基礎資材の生産者としての自覚と誇りをもって、その社会的使命を果たしていくことを経営理念とする」。

「経営方針」は次のとおり。

1. 品質管理を徹底し、安定な品質を保証する。
2. 生産、輸送体制を充実し、円滑な納入を保証する。
3. コスト意識を徹底し、原価の低減に努める。
4. 常に技術革新の流れに目を向け、技術力の開発と向上に努める。
5. 社員の意欲の高揚と人材の育成に努める。
6. 公害防止と安全管理に努め、地域社会に対する責任を果たす。

同社はわが国初の生コン工場の歴史を引き継ぐ生コン製造会社であり、経営方針にもその誇りが表れている。全生連活動でも同社の根岸社長が総務委員会委員長を務めるなど、業界の牽引役となっている。

安定した品質と供給

同社は、根岸正之社長から提示のあった品質方針をベースとした課題をもとに目標を設定している。品質方針は、「私たちは優れた品質と納入でお



計量制御盤

れるようにしている。

試験室は3名だが、「現場採取は代行業者が行っているので、工程管理に傾注できる」（松崎一郎品質管理課長）としている。

クレームは対応策を含め本社生産管理部に報告。情報を社内で共有化している。労働災害も同様に全社的に改善事例を報告して情報を共有化。横浜工場では労災事故50%減を目標に危険箇所の排除・リスク低減に努めている。安全衛生面では、アルコールチェックを備え、朝礼でドライバーの健康状態をチェックしている。

横浜工場の出荷量は11年度が12万1千m³。12年度出荷量は9万m³を見込んでいる。建築が主体で、11年度の高強度コンクリートは1万1千m³で全体の9・4%を高強度コンクリートが占める。高強度コンクリートの実績はFc70N/mm²がある。高強度コンクリート性能評価単独大臣認定はFc80N/mm²で取得している。JISは普通、軽量を取得しているが11年度は軽量コンの出荷は微量であった。

供給エリアは約7km。神奈川、湘南、横須賀の各協同組合に加入しているが、神奈川協同組合が大半を占める。

セメントは普通、早強、中庸熱、低熱、高炉B種。サイロは4基で、300トン、1300トン、1200トン、100トン（2分割）。骨材貯蔵設備は屋根付きヤード6000トン1基（内部7区画）。骨材は富津市鶴岡産山砂、高知県鳥形山産石灰砕石、人工軽量骨材はメサライトを使用。

アジテータ車は大型19台ですべて自家用。ドライバーは派遣で、足りないときは社内及び備車を使うことも。



伊藤工場長



野山工場次長



松崎課長

有資格者育成を目標に

横浜工場の有資格者は、コンクリート技士4名、コンクリート主任技士3名、コンクリート診断士1名。

「プラストからの従業員にコンクリート主任技士がいないので、主任技士輩出を目標に掲げ、育成に力を入れている」（伊藤常務取締役工場長）。8月から11月に工場講習会を開催するほか、セメントの通信教育等も受けら



松崎課長

る。同社は、根岸正之社長から提示のあった品質方針をベースとした課題をもとに目標を設定している。品質方針は、「私たちは優れた品質と納入でお